

東北の国土は私たちが守っていく

東測協活動報告

Tohoku Survey & Planning General inc.Association Activity Report

vol.12

令和7年7月



北緯40度、東経140度のラインが交わる点（秋田県大湯村）

CONTENTS

- ・副会長挨拶
- ・令和7年度通常総会及び創立40周年行事の報告
- ・令和6年度整備局及び各県事務所長との意見交換会を開催
- ・令和7年度雄物川総合水防演習活動報告
- ・令和6年度ICT・UAV基礎技術講習会報告
- ・東測協の現状と活動内容
- ・令和6年度活動報告
- ・建設技術公開「EE 東北 '25」開催
- ・編集後記

かつて八郎潟の湖底だったところが開拓され誕生した場所で、
日本の陸上で唯一緯度と経度が10度単位で交わる場所

私達の理念

東北に根ざし、地域に責任を持ち、期待される協会



一般社団法人 東北測量設計協会

Tohoku Survey & Planning General Inc.Association



創立40周年を迎えて

一般社団法人 東北測量設計協会

副会長 伊 藤 清 郷

昭和60年に発足いたしました当協会は、お陰様で創立40周年を迎えることができました。5月16日には記念講演として東北地方整備局長西村拓様にご講演をいただき、引き続き創立40周年記念祝賀会を開催できましたこと、関係各位の皆様方へ厚く御礼を申し上げます。これまでの40年を振り返り、必要とされる協会として今日まで逞しく活動が続けることができたことに感謝するとともに、協会設立時の先達の思いを強く胸に刻み込む貴重な機会となりました。

昨年は、能登半島の地震や豪雨、秋田県・山形県の豪雨災害において被災箇所調査やTEC-FORCE支援等、会員の皆様には多大なるご協力をいただきましたことに心から御礼申し上げます。東北地方整備局様には、能登豪雨災害への派遣時に宿の一括手配とドローンの航空局申請を行っていただきました。加えて災害対応による既往業務の一時中止や工期延長のご配慮も頂戴しております。さらには、災害対応の反省点の共有化として、昨年11月にTEC-FORCE支援に係る東測協との意見交換会並びに活動報告会を開催いただきましたことに感謝申し上げます。

不確実性の時代が進行し変化の幅が大きくなっていく中、それに対応できる順応性、機動性、果敢に挑戦する積極性を高め、自信と誇りを持ち引き続き信頼される協会を目指し活動してまいります。

さて、政府では地方創生2.0「令和の日本列島改造」を柱とした経済、防災、安全保障の四つの主要政策を掲げておりますが、中でも日本の活力を取り戻す経済政策の実現と、防災・減災・災害対応は、私たちの業界が積極的に関与していかなくてはならない政策分野であります。

益々頻発化する自然災害やインフラ老朽化に対して、流域治水における水害リスクの自分事化や上下水道施設老朽化による道路陥没等、各種インフラ老朽化対策へ強力な支援体制を築き、時代の要請に応えていかなければなりません。また、東日本大震災の経験とその教訓の伝承に一層務め災害に対応できる会員の増強にも努めながら美しい東北を守り未来を創造してまいります。

最後に、このような状況を踏まえ、我々東北測量設計協会は、「技術の研鑽」、「担い手の確保・育成」、「災害に迅速に対応できる組織力」、「建設DX対応」の4項目を重点項目として活動を進めてまいります。

次世代へ技術の継承を図るため大学等と連携した学生の教育支援、PR動画等により広くアピールをし、加えて協会各社が抱える課題解決に寄与するような情報発信や、技術力向上に向けた各種講習会を実施いたします。地元企業が、夢や将来のある魅力的な企業として、若年層を惹きつける場や資質向上が図れるように様々な施策を実行してまいります。

「東北の国土は私たちが守っていく」のスローガンのもと、期待される協会として、東北地方の発展、国土保全に貢献し取り組んでまいりますので、当協会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度 通常総会及び創立40周年行事の報告

総務委員会

令和7年5月16日、第14回通常総会が開催され、令和6年度事業及び収支決算について審議の結果承認されました。

併せて令和7年度事業計画及び収支予算案について報告しました。

令和7年度事業計画には、1. 業務領域の拡大。2. 発注機関との意見交換。3. 学との連携。4. 技術力の向上。5. 啓発宣伝。6. 後継者及び若手幹部職員の育成。などを盛り込みました。

また、東北地方整備局への要望として、新たに緊急災害対応独自の業務成績評定の運用について要望することといたしました。

最後に、創立40周年事業として制作した東測協PR動画を披露し、通常総会を終了いたしました。

通常総会に引き続き、講師に東北地方整備局長西村拓様をお迎えし、創立40周年記念講演会を開催しました。

始めに菅原副会長から40年を振り返っての開会

挨拶の後、西村局長様から「東北地方の目指す将来～国土交通分野の視点から～」と題して「第三次東北圏広域地方計画(計画体系案)」からの広域連携プロジェクト概要を中心にご講演を頂きました。

記念講演会終了後、記念祝賀会を開催、東北地方整備局長をはじめ、来賓、会員など合わせて87人が出席しました。

祝賀会冒頭に歴代会長3名に功労者表彰を行い、会長あいさつ、来賓祝辞の後、補償コン東北支部長田村道雄様の乾杯で祝宴となりました。

40周年の節目を迎え、会場は大いに盛り上がり、最後に、鵜沼総務委員長による閉会のことばで祝賀会も御開きとなりました。

本年度も「東北の国土は私たちが守っていく」というスローガンのもと、地域の企業として雇用を維持し、地域の活性化、社会への貢献を通じて「東北に根差し、地域に責任を持ち、期待される協会」の実現に邁進します。



令和6年度 整備局及び各県事務所長との意見交換会を開催

総務委員会

令和6年度意見交換会は、7月24日東北地方整備局を皮切りに、東北6県の事務所長と意見交換を行いました。

- (1) 次世代に引き継ぐ公共インフラの整備について
- (2) 地域の守り手としての地域コンサルタントの活用について
- (3) 建設DXの推進について

意見交換会では、直轄当初予算配分が伸びないなか、当初予算の拡大をお願いするとともに、中長期的一般予算の確保と着実な執行をお願いいたしました。

また、働き方改革に伴う配慮として特に納期の平準化、繰越の活用、及び地域の担い手としての地域コンサルタントの受注額割合の一定量の確保について強く要望しました。

令和6年度新規として、災害対応について要望項目といたしました。令和6年能登半島地震TEC・FORCE支援の際の経験を踏まえ、今後に生かすための情報交換、反省点の共有化等について要望しました。

なお、能登半島地震対応の意見交換(振返り)要望に対して、令和6年11月、東北地方整備局防災Gと当協会ドローン班メンバーで意見交換会が開催され、機材の統一、指揮系統の明確化などについて意見交換し、今後の課題等について確認いたしました。

令和7年度についても引き続き、地域の守り手としての地域コンサルタントの活用促進に向け活動をして参りたいと存じます。



令和7年度 雄物川総合水防演習報告

東邦技術株式会社

1. 活動概要

令和7年度 雄物川総合水防演習が令和7年5月25日(日)に開催され、当協会では水防演習内の「ドローンによる被災状況調査」と防災展への出展について秋田県内会員8社が担当しました。

水防演習は、雄物川流域で大雨が続き堤防の越水により、周辺の住宅が浸水し『警戒レベル5』の『氾濫発生情報』が発表されたと想定し、当協会は、東北地方整備局から災害協定により、被災箇所の調査と測量の要請を受け、ドローンによる空中からの撮影を実施する内容でした。

2. 活動内容

(1)令和7年5月18日(日)総合リハーサル

【2社11名参加】

演習会場となる雄物川河川敷において、協会担当者と湯沢河川国道事務所、会場運営に携わる各担当者が集い、当日のスケジュールに合わせた飛行や紹介コメントの内容等を確認しました。

また、本番当日の天候不良により飛行が困難になった場合を想定し、事前に動画の撮影を行いました。

(2)令和7年5月18日(日)総合水防演習(当日)

【8社24名参加】

演習は洪水災害に備えた水防演習で、流域の水防団をはじめ市町村及び関係機関を中心に約1,300人が参加し行われました。

前日より天候不良が懸念されましたが、開会式直前に雨もあがり順調に演習が行われました。

開会式では、国土交通省のTEC-FORCEと共に出席しました。

被災状況調査では、飛行コースに人が入らないように監視員を配置しドローンを飛行しました。

ドローン飛行は、ライブ映像と事前に準備した



開会式への参加

三次元モデルを国交省リポーターとともに現地説明を行いました。

当日の様子はYouTubeでライブ配信するとともに、各テレビ局でも報道されています。

防災展では、協会の取り組みや災害時の対応をまとめたパネル、各種ドローン、無人測量ボート、地上スキャナ等を展示し最新技術を紹介しました。

3. まとめ

近年は毎年のように自然災害が発生し激甚化しており、被害を最小限に抑えるよう効率的な対応が必要となっています。今回の総合演習では、平時における水害タイムラインに基づいた訓練として重要であり、また、関係機関との連携が必要不可欠であることを実感しました。



ドローン調査デモ



現地レポーターインタビュー



防災展ブース



参加者集合写真

令和6年度 ICT・UAV基礎技術講習会報告

技術委員会

建設業の生産性向上等を目指してi-Constructionの普及推進のため、東北土木技術人材育成協議会（事務局：東北技術事務所）の構成団体として、東北土木技術人材育成協議会主催のICT/UAV基礎技術講習会へ講師派遣を行いました。

【講義内容】 3次元測量の概要とポイント
(3次元測量の基礎知識、安全対策、活用事例等)

【講師】

青森県会場	(株)キタコン	高山 宏 氏
岩手県会場	(株)アースデザインコンサルタンツ	小野寺應治 氏
宮城県会場	(株)サトー技建	岩本 春男 氏
秋田県会場	(株)眞宮技術	細田 薫 氏
山形県会場	(株)双葉建設コンサルタント	豊岡 雅巳 氏
福島県会場	昭和技術設計(株)	伊藤 信敬 氏

【受講者】 東北6県 506名 (現地実習含む)

● 令和6年度 ICT・UAVコースの実施状況

東北地方の全県6会場で開催され、506名が受講。座学と実習・見学を実施。

※宮城県会場の座学はWEB配信併用で開催

◆ICT・UAV 受講者数506名 (官260名 民246名)

- ・東北6県を会場に「座学」と「実習」を実施（一部を除く）。いずれかを受講することも可能。
- ・座学では、各県や当整備局におけるi-Constructionの取り組み、3次元測量やICT活用工事での監督・検査の留意点、ICT建機施工などについて、各業団体から講師が解説。
- ・現地実習では、UAVレーザー測量や遠隔臨場の概要説明及び実演であったり、ICT活用工事の現場見学を実施。

〈受講生の声〉

【行政】

- ・ICT活用工事の流れを詳しく知ることが出来たので良かった。
- ・将来的には市町村でもICTを使用すると思うので参考になった。
- ・実際に現場で研修を行うことでイメージが付きやすかった。

【民間】

- ・3D設計データの使い道がマシンガイダンス以外にも色々あることを知り、考えが広がった。
- ・実際に機械に触れて、操作等ができ、理解が深まった。



【宮城県会場】座学



【宮城県会場】3次元計測技術実習



【青森県会場】3次元計測技術実習



【岩手県会場】ICT建機操作実習



【秋田県会場】ARの活用



【福島県会場】ICT建機実習



【山形県会場】ICT活用工事



【山形県会場】3次元計測技術実習

東測協の現状と活動内容

東北地方整備局の 入札契約制度改善に対する御礼

年度	取 り 組 み 内 容
R 3	納期平準化の取組み
R 3	早期発注における予定技術者の手持ち業務量
R 3	技術資料のWEB閲覧の徹底
R 3	WEBを活用した技術提案ヒアリングの実施
R 3	一括審査の積極的な活用
R 3	条件明示チェックシートの適切な運用
R 4	施工能力評価型の拡充(業務規模1,500万円から2,000万円へ)
R 4	チャレンジ型(設計業務)の拡充(業務規模1,000万円から2,000万円へ)
R 5	橋梁定期点検業務等積算基準歩掛の改正
R 7	13年連続の技術者単価引き上げ(最高値更新 5万円に迫る)

協会会員数と技術者数 (令和7年4月1日現在)

会 員 数	(社)	63
職 員 総 数	(人)	4,020
うち技術職員	(人)	3,352
博士(工・理・農)	(人)	21
技 術 士	(人)	654
技 術 士 補	(人)	586
R C C M	(人)	延べ 1,059
測 量 士	(人)	1,170
一 級 建 築 士	(人)	63
補償業務管理士	(人)	延べ 1,946

会 員
職種別平均年齢

事務職員 46.5歳
技術職員 46.9歳

協会活動の紹介

● 技術力向上講習会、安全管理活動

【講習・研修会】

- ☆ 技術士・補償業務管理士資格取得講習会
- ☆ 補償実務講習会
- ☆ 総合評価・品質向上対策講習会
- ☆ インフラDX講習会
- ☆ 現場研修会
- ☆ 技術士会・土木学会を通じたCPD教育

【広報紙発行・講師派遣】

- ☆ 東測協活動報告の発行
- ☆ 労働災害事故事例集の編集
- ☆ 労働安全講習会へ講師派遣等の安全管理活動を実施
- ☆ (整備局)防災危機管理セミナーへの講師派遣

【各種協議会等への参画】

- ☆ 東北土木技術人材育成協議会
- ☆ 東北みらいDX・i-Construction連絡調整会議
- ☆ 東北インフラ・マネジメントプラットフォーム協議会
- ☆ 東北地方整備局総合水防演習
- ☆ 3.11伝承ロード推進機構活動

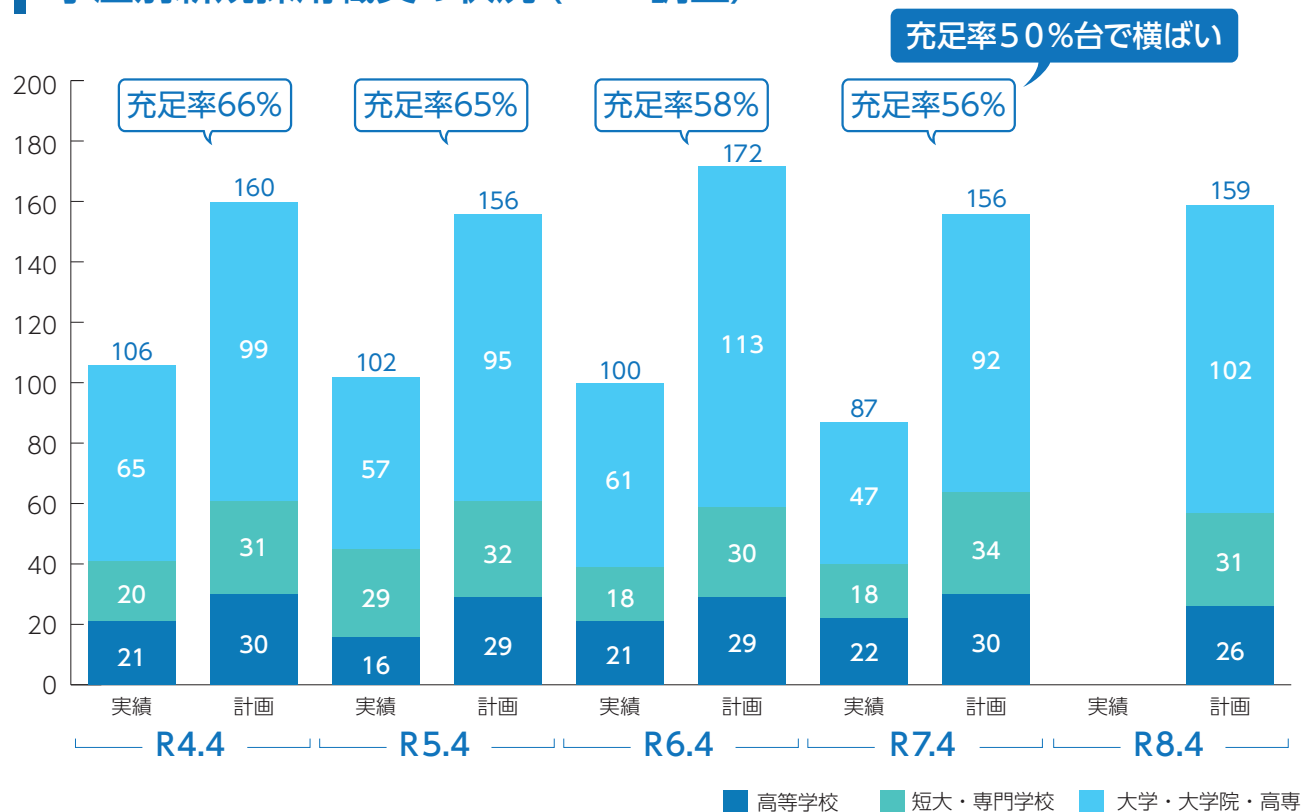
● 担い手確保と育成、土木の魅力を若者へ伝える活動

大 学 名	活 動 内 容
東北学院大学 環境建設工学科	【キャリアデザイン講義】 地域コンサルタントの役割、インフラ整備における測量・設計の役割をテーマに講義を実施
東北工業大学 工学部都市 マネジメント学科	【空間測量Ⅱ講義】 SLAM測量、MMS測量及びUAV測量の現状について講義を実施
八戸工業大学 土木建築工学科	【測量実習】 最新の測量機器を用いた実践的な測量実習の実施

● 災害協定に基づく災害応急対策業務

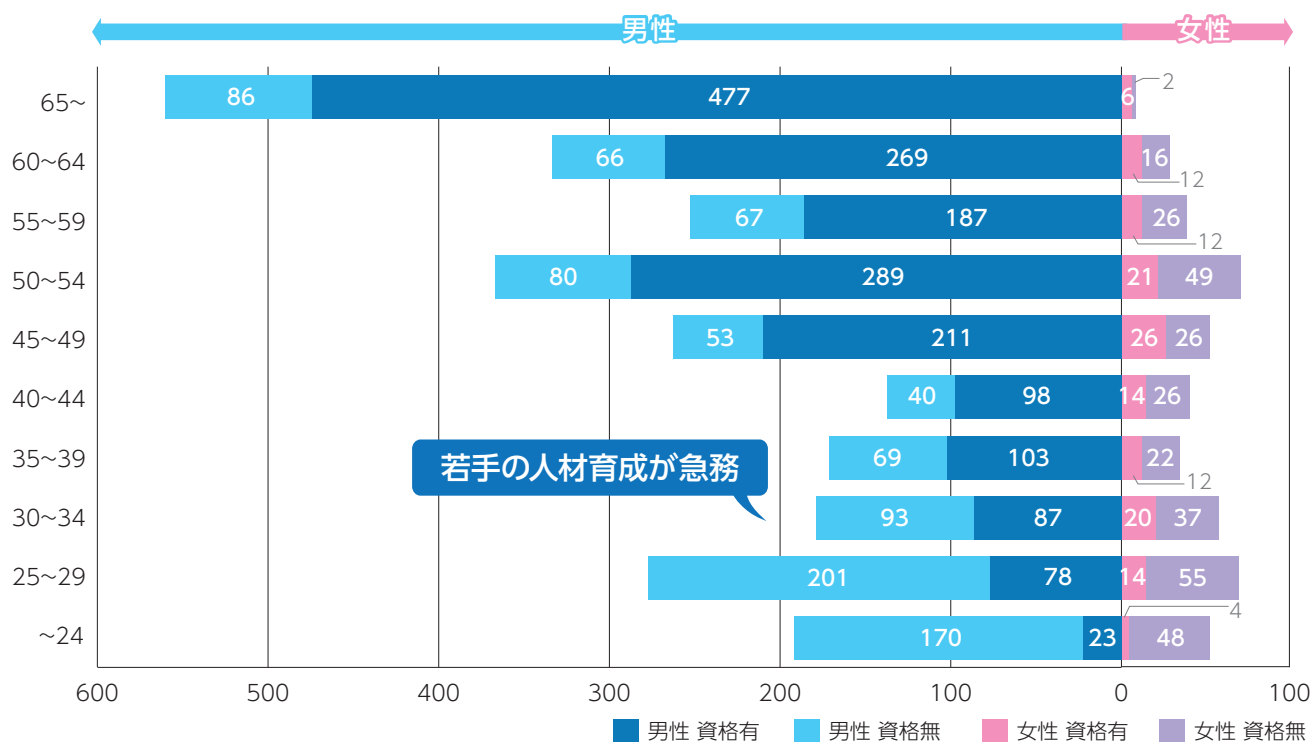
- ☆ 令和6年能登半島地震TEC-FORCE支援
- ☆ 令和5年7月秋田県内梅雨前線による大雨災害
- ☆ 令和4年7～8月宮城・山形・青森県内大雨による豪雨災害
- ☆ 令和元年東日本台風 などの災害応急対策業務を実施

学歴別新規採用職員の状況 (R7.4調査)

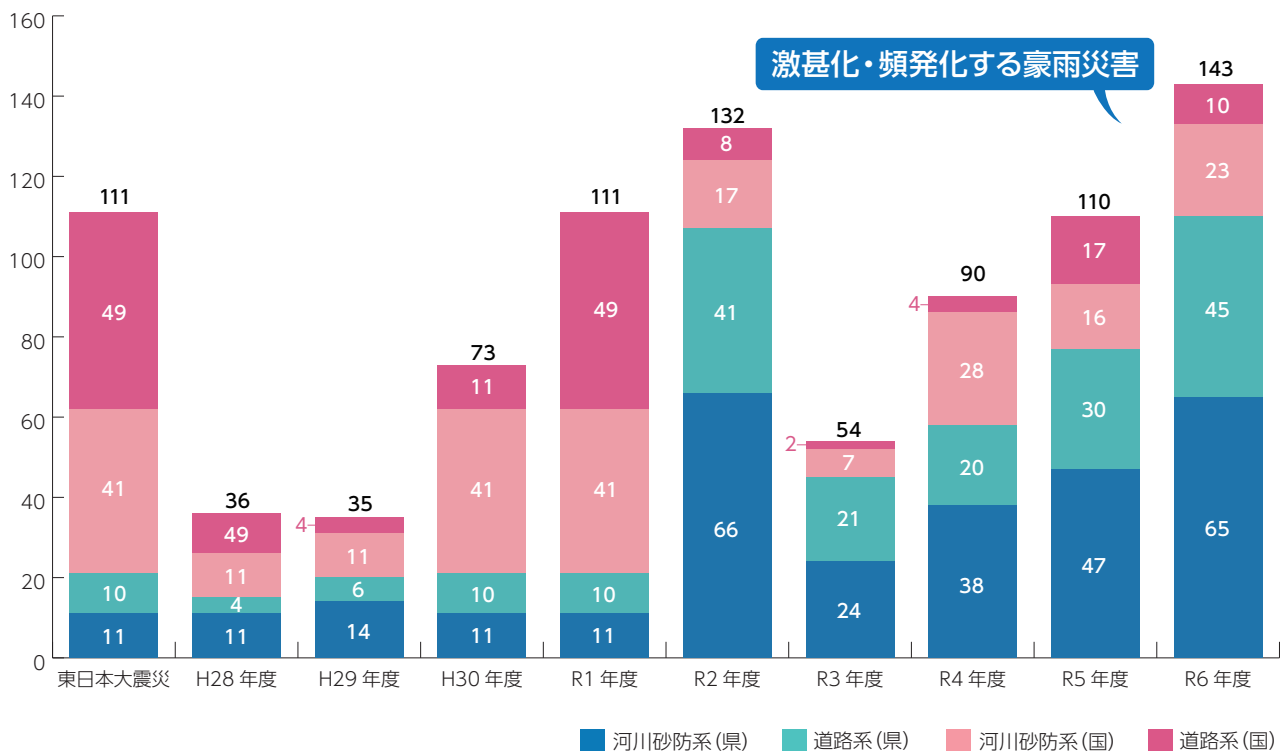


技術系社員の年齢構成 (R7.4調査)

【平均年齢46.9歳】



東北地方整備局及び各県 災害業務対応状況



主な災害業務 東北地方整備局対応状況

年度	主な災害	整備局要請元
平成23年度	東日本大震災	防災室ほか
平成28年度	台風10号豪雨災害(岩手県岩泉町) TEC-FORCE 随行	防災室
平成29年度	7月秋田豪雨災害ほか	秋田河国、北上下流、仙台河国
平成30年度	5月秋田県豪雨災害	秋田河国
令和元年度	令和元年度東日本台風(台風19号) 災害	福島河国、郡山国道、山形河国、仙台河国、北上下流、三陸国道ほか
令和2年度	7月山形県豪雨災害	山形河国、新庄河川
令和4年度	8月山形・秋田県大雨災害TEC-FORCE随行	防災室
	8月宮城県ほか豪雨災害	青森河国、能代河国、山形河国、最上ダム統、岩手河国
令和5年度	7月秋田県豪雨災害TEC-FORCE随行	防災室
	7月秋田県豪雨災害	秋田河国、湯沢河国、能代河国
	令和6年1月能登半島地震TEC-FORCE随行	防災室
令和6年度	7月秋田・山形県大雨災害TEC-FORCE随行	防災室
	7月秋田・山形県大雨災害	秋田河国、湯沢河国、坂田河国、新庄河川、最上ダム統
	9月能登半島地方大雨災害TEC-FORCE随行	防災室

令和6年度 活動報告

R6

- 4/12 ● 会計監査受検
- 4/12 ● 役員選考委員会
- 4/23 ● 第1回理事会
- 4/25 ● 第1回補償業務小委員会
- 5/17 ● 第13回通常総会
一号議案:令和5年度事業実施報告
及び収支決算報告
二号議案:役員の選任
三号議案:その他
会員63名(出席者45名、委任18名)



- 5/17 ● 第2回理事会
- 5/23 ● 災害・危機管理セミナー
(防災)(整備局)へ講師派遣



- 5/29 ● 補償実務講習会
参加者 15社 21名



- 5/29 ● 用地調整官懇談会
- 6/10 ● 第1回技術委員会
- 6/13 ● 経営者研修会
高知県南海トラフ
地震防止対策施設
視察 18名
- 6/17 ● 第1回総務委員会
- 6/24 ● 第1回企画委員会
- 6/27 ● 第1回補償業務委員会
- 7/3 ● 災害・危機管理セミナー
～4 (TEC ドローン)(整備局)へ講師派遣



R6

- 7/18 ● 災害・危機管理セミナー
(TEC技術系I期)(整備局)へ講師派遣
- 7/19 ● 第2回補償業務小委員会
- 7/23 ● 国土交通行政災害対策功労者表彰受賞
- 7/24 ● 東北地方整備局意見交換会



- 7/25 ● 災害協定に伴う災害対策本部設置
7月山形県・秋田県内大雨災害



- 7/21 ● 補償業務小委員会
- 8/27 ● 補償業務管理士講習会
～28 参加者17社 31名



- 9/11 ● 第3回理事会
- 9/12 ● コンプライアンス研修会
6団体共催 参加者 715名
- 9/17 ● 秋田県内事務所長意見交換会
能代市 能代河川国道事務所
- 9/19 ● ICT・UAV基礎技術講習会
～ 9/19 秋田県会場(講師:株式会社眞宮技術)
9/26 青森県会場(講師:株式会社キタコン)
10/8 宮城県会場(講師:株式会社サトー技建)
10/16 福島県会場(講師:昭和技術設計株式会社)
10/21 岩手県会場
(講師:株式会社アースデザインコンサルタンツ)

R6

10/24 山形県会場
(講師:株双葉建設コンサルタント)



- 9/25 ● 総合評価及び品質向上に関する講習会
参加者 24社 70名
- 10/ 9 ● 岩手県内事務所長意見交換会
盛岡市 北上川ダム統合管理事務所
- 10/30 ● 宮城県内事務所長意見交換会
仙台市 仙台河川国道事務所



- 10/24 ● インフラDX 講習会
参加者 20社 38名



- 11/ 1 ● 能登半島大雨 TEC-FORCE 報告会
(整備局)に参加



- 11/ 5 ● 第2回技術委員会
- 11/ 7 ● 東北工業大学「空間測量Ⅱ」講義
工学部都市マネジメント学科3年生 63名
- 11/ 8 ● 能登半島地震 TEC-FORCE 帯同に
関して、整備局と意見交換会



- 11/14 ● 第4回理事会
- 11/21 ● 山形県内事務所長意見交換会
山形市 山形河川国道事務所
- 11/27 ● 技術士試験基礎対策講習会
参加者 11社 22名

R6

- 12/ 5 ● 災害・危機管理セミナー
(TEC技術系Ⅱ期)(整備局)へ講師派遣
- 12/ 7 ● 東北工業大学「空間測量Ⅱ
・21 「SLM・MMS・UAV」リモート講義
東北工業大学工学部
都市マネジメント学科3年生 52名
- 12/ 7 ● 第1回三役会議
- 12/10 ● 福島県内事務所長意見交換会
福島市 福島河川国道事務所



- 12/10 ● 第1回三役会議
- 12/12 ● 青森県内事務所長意見交換会
青森市 青森河川国道事務所
- 12/16 ● 第2回企画委員会
- 12/18 ● 第2回総務委員会
- 1/21 ● 第2回三役会議
- 2/14 ● 第5回理事会
- 2/14 ● 全員協議会
参加者 53社53名
- 2/14 ● 安全大会
参加者 53社69名
- 2/14 ● 会社経営研修会
参加者 53社73名



- 3/ 5 ● 第1回諮問懇談会



- 3/ 6 ● 第3回技術委員会
- 3/11 ● 第2回補償業務委員会
- 3/11 ● 第3回補償業務小委員会
- 3/17 ● 第3回企画委員会
- 3/26 ● 第3回総務委員会

建設技術公開「EE東北'25」開催

令和7年6月4～5日、建設事業に係わる新材料・新工法、その他時代のニーズに対応して開発された新技術を公開し、その普及を図る事によりさらに新たな技術開発の促進と、良質な社会資本の整備を通じて地域の発展に寄与することを目的として、建設技術公開「EE東北'25」が開催されました。会場内の新技術展示会においては、計952技術が出展されました。

開会式では、来賓の国交省官房参事官から、「i-Conやデジタル技術、脱炭素等の環境対策技術が多数出展されるとともに次の世代を担う若い人たちが活躍することに期待」との祝辞が寄せられました。

当協会会員も、「維持管理・予防保全の技術分野」「防災・安全の技術分野」のブースに新技術の出展をいたしました。



編集後記

この度の創立40周年記念講演会につきまして、東北地方整備局長西村拓様からたいへん貴重なご講演を賜り、厚く御礼申し上げます。

盛沢山の内容をご準備頂きましたが、最後は時間的に足りないこととなり、次の機会がございましたら、さらにお話をお伺いしたいところであります。

総会等での当協会菊池会長のご挨拶にもありましたが、昨今の頻発する大規模災害に対して、協会としての存在価値、役割を改めて認識し、会員が一丸となって、東北の未来を守っていかねばと思います。

前号以降の活動報告としては、掲載している通りであります。引き続き、タイムリーな話題も含めて、情報発信していきたいと考えております。

発注者並びに関係各位、会員企業の皆様に対しましては、今後ともご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

企画副委員長 金澤 範宜



お問合せは

一般社団法人 東北測量設計協会

〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町3丁目6-17 (勾当台本町ビル6F)

TEL.022-263-0922 FAX.022-263-1744

E-mail info@tospa.org

公式HP <https://tospa.org/>

Access Map



令和7年7月発行